

# 和の摩擦



## ④ 設計手法

### 感摩 — 4 つの手法の化学反応 —

潜在的な美的感覚を手掛かりに、主観的かつ和的な要素を抽出した。それらを概念として捉えなおした建築的操作から空間の再構築を図る。それらは個別の手法として成り立つが、相互に摩擦させることで、新たな和的空間を形成する大きな手法として成立するのではないか。



曖昧さ：環境に自分という存在が馴染んでいく

孤独感：暗く静かな寂しさにどこか心地良さを感じる

対比：見慣れた日の光景が夜の静かさを際立たせる

違和感：残された痕跡や違和感が環境を積極的に観察させる

### 【主観的和的要素の抽出】

曖昧さ



対比



違和感



孤独感



緩やかに分節



滲むような光



抽象・誇張表現



濃淡



緩やかな仕切り



内と外



暗さとおしゃまいと鉄筋



暗さと金



静と動



亀石



囲き口



風化



幽玄



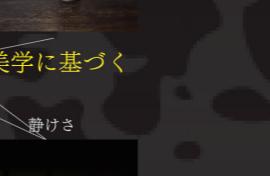
付書院



御簾



寂び



静けさ



孤立は社会から離脱し、禅のように自然体としての自分に没入させる

## 私たちの和の表現

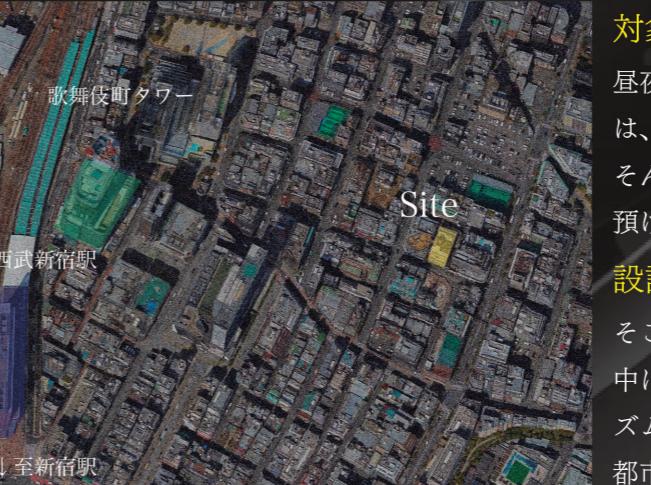


- 解釈
- 言語化
- 建築変換

本提案は、「和」を単に寺社や庭園といった日本の風景に見られる視覚的な意匠として捉えるのではなく、それらを生み出した日本人固有の美的感覚や感性に本質を見出すものである。遺伝子的とも言える感性の中に宿る“和”を読み取り、それを建築空間として現代に再解釈・表現することを目指す。

—— 感性による和的要素の抽出を起点とする ——

## ③ 敷地



### 対象敷地：新宿区歌舞伎町

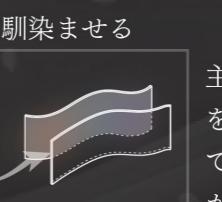
昼夜を問わず様々な人々が行き交い、ネオンの明かりがあふれるこの街には、都市のエネルギーとともに、どこか息苦しさや孤独感も漂っている。そんな喧騒のただ中にあって、ふと逃げ込みたくなるような、心を静かに預けられる場所が求められていると感じた。

### 設計：ペントハウス 雑居ビルの屋上

そこは、都市の喧騒から切り離された“夜の公園”的な場——静寂の中に微かな気配が漂い、孤独が心地よく感じられる空間。人々が日常のリズムを離れ、自身と向き合うことのできる小さなアジールとして、都市の中にひそやかに存在する「和」の空間を目指す。

### 【抽象化】

曖昧

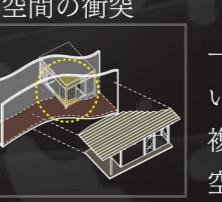


馴染ませる

### 終わりなき環世界の浸透

主観的輪郭線を環境に馴染ませ、環世界をじわじわと広げていく。どこまで続いているのか、どこで終わっているのか分からない。

陰陽

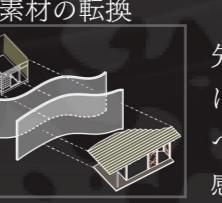


空間の衝突

### 3次元のぶつかり合いが調和

一見相容れないような空間の衝突は、互いの要素を詳らかにする。その要素らが複雑に絡み合い、それぞれを引き立たせ、空間に調和をもたらす。

機

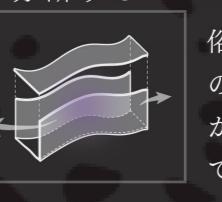


素材の転換

### 場の素材で空間の感覚を共鳴

先天的なモノ由来の素材ではなく、そこに相応しい場所由来の素材構成は、空間への調和と違和感を生み出し、体験者の感覚を環境に向けさせる。

寂



分断する

### 環境と溶け合う孤の世界を創出

俗世と離れ、自分だけの時間が流れる夜の公園的な空間を生み出す。環境と自分が一体となり、環境に感覚を向けることで、自分だけの環世界の中に没入させる。